

主要産地における令和4年産水稲の生育状況等について 第10報 (令和4年8月1日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年8月1日)

道府県	区分	生育状況等		(参考)	
		育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象等公表資料の抜粋)		
北海道		<p>【生育状況(7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年並に進んでいる。(北海道農政部 7月22日付)</p> <p>(空知) 生育は平年並である。(空知総合振興局 7月22日付)</p> <p>(石狩) 高温傾向で生育は順調。(石狩振興局 7月22日付)</p> <p>(後志) 遅延はプラスマイナス0。(後志総合振興局 7月22日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月22日付)</p> <p>(日高) 生育は平年並であるが、一部地域では深水の影響で、茎数は平年より少ない傾向となった。(日高振興局 7月22日付)</p> <p>(渡島) 茎数は平年より少ないが、生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 7月22日付)</p> <p>(樺山) 生育は概ね平年並で推移。(樺山振興局 7月22日付)</p> <p>(上川) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(上川総合振興局 7月22日付)</p> <p>(留萌) 生育はやや早く進んでいる。(留萌振興局 7月22日付)</p> <p>(オホーツク) 高温多照により生育は回復し、平年並となった。(オホーツク総合振興局 7月22日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し8月～10月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報】</p> <p>北海道太平洋側は8月3日頃から、かなりの高温(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米<sup>カハ</sup>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。</p> <p>(農林水産省 3月16日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
	青森	<p>【7月20日現在】</p> <p>「つがるロマン」草丈が76.2cmで平年より6.8cm長く、株当たりの茎数は24.3本で4.0本少なく、葉数は12.1葉で0.3葉多かった。</p> <p>「青次の露」草丈が83.8cmで8.5cm長く、株当たりの茎数は23.1本で2.4本少なく、葉数は11.0葉で0.3葉多かった。</p> <p>「まっしぐら」草丈が95.6cmで10.6cm長く、株当たりの茎数は26.2本で3.0本少なく、葉数は12.0葉で0.4葉多く、全調査が最終熟齢に達していた。</p> <p>「はれわたり」草丈が83.3cm、株当たりの茎数は23.1本、葉数は11.6葉であった。</p> <p>(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米<sup>カハ</sup>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>	
岩手		<p>【7月26日現在】</p> <p>・農業改良普及センター生育診断予察圃の幼穂形成期は県全体で7月11日頃(平年差±0)となっており、出穂期はほぼ平年並の8月3日頃と見込まれる。</p> <p>(岩手県 7月28日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米<sup>カハ</sup>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「鏡河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
	宮城	<p>【7月20日現在】</p> <p>(亘理) 「ひとめぼれ」田植えが比較的早かった亘理町のほ場では、7月18日で減数分裂期に達している。その他のほ場では幼穂形成期に達しているものの、幼穂の伸長は平年よりやや鈍くなっている。7月20日で減数分裂期に達している(平年より2日遅い)。生育量はやや過剰となっている。「金のいぶき」7月20日における幼穂長は26mmで、21日で減数分裂期に達している(前年並)。生育量は概ね減数分裂期における目安の範囲となっている。(宮城県亘理農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(大崎) 草丈は平年を上回り、茎数は平年より少なめの傾向。葉色は前回調査より低下しているが、概ね幼穂形成期・減数分裂期の目安の範囲にある。(宮城県大崎農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(栗原) 「ひとめぼれ」では、草丈は平年より長く、茎数は平年並、葉数は平年並で推移している。築館「ひとめぼれ」では減数分裂期に達しており、若柳・一迫「ひとめぼれ」はまもなく減数分裂期に達するものとみられる。今後の天候が平年並で経過すると、中生産域の出穂期は8月5日頃(北部平坦部)の見込み。(宮城県栗原農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(石巻) 7月20日現在の予測では、生育調査ほの出穂期は7月29日～8月3日頃の予想。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(気仙沼) 幼穂の形成は7月中旬以降の低温・寡照傾向で鈍化したが、本吉、志津川ではすでに減数分裂期を迎えた。生育の早いほ場は今月中に出穂が見込まれる。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月25日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米<sup>カハ</sup>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>	
秋田		<p>(雄勝) 田植え時期の早いほ場では、ちらほらと穂が始めた。管内の出穂期は平年よりやや早まる見込み。(8月1日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米<sup>カハ</sup>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
	山形	<p>【7月20日現在】</p> <p>「はえぬき」の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色は並となっている。「つや姫」の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数は並、葉色はやや淡くなっている。「雪若丸」の生育は、指標と比較して、草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉数はやや多く、葉色はやや淡くなっている。</p> <p>・出穂期は、概ね平年並の見込みである。</p> <p>(山形県農業技術環境課 7月25日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>	
福島		<p>【7月5日現在】(農業総合センターの作柄解析試験)</p> <p>・「コンヒカリ」は、草丈が本部(郡山市)、浜地域研究所(相馬市)で平年より長く、会津地域研究所(会津坂下町)でやや短くなっている。茎数は本部、会津地域研究所で少なく、浜地域研究所は平年並。葉色はすべての調査場所で平年より淡い傾向。主稈葉数は、全ての調査場所で平年並。</p> <p>(福島県 7月11日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「コンヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「実のつぶ」が増加していたが、飼料米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
	茨城	<p>【7月20日現在、水戸市】</p> <p>(5月2日移植) ・出穂期は「あきたこまち」で7月17日(平年より2日遅)、「ふくまるSL」で7月19日(同2日遅)、「コンヒカリ」で7月20日。</p> <p>(5月10日移植) ・出穂期は「コンヒカリ」で7月20日。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月25日付)</p> <p>【7月15日現在、龍ヶ崎市】</p> <p>(4月27日移植) ・出穂期は、「あきたこまち」は7月11日で平年並、「ふくまるSL」は7月15日で平年並である。「コンヒカリ」は、今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は7月23日頃である。(5月6日移植) ・今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される「コンヒカリ」の出穂期は、7月26日頃である。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・「コンヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>	

栃 木	<p>【7月20日調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「早稲コシヒカリ」草丈は平年よりやや高く、茎数はやや少なく、葉色はやや淡く、生育量（生育診断値）は平年をやや下回っている。</li> </ul> <p>(生育) ・「コシヒカリ」（5月4日移植、宇都宮市）の出穂期は7月26日頃の予測（平年より4日程度早い）。</p> <p>（栃木県農政経営技術課 7月25日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</li> </ul>
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東甲信地方は6月27日に平年より22日早く梅雨明けし、平年より気温が高く推移した。このため、幼穂形成期から出穂期までの日数が短くなり、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年より3日早く出穂期を迎え、「コシヒカリ」「粒すけ」は平年並に出穂期を迎えている。</li> </ul> <p>(生育) ・成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月10日から、「ふさこがね」は8月15日から、「コシヒカリ」「粒すけ」は8月25日からと予測される。</p> <p>（千葉県 7月25日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」「ふさこがね」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の低い「ゆきん子養」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。</li> </ul>
新 潟	<p>【7月28日調査】</p> <p>(岩 船) コシヒカリの出穂期は平年並の見込みだが、出穂の早い地域もあり、地域・品種によりばらつきが認められる。 （村上農業普及指導センター 7月28日付）</p> <p>(新発田) 「コシヒカリ」草丈（指標比108% やや長い）、茎数（同100 % 並）、葉数（同+0.4葉 やや早い） （新発田農業普及指導センター 7月29日付）</p> <p>(新 潟) 「コシヒカリ」の生育は、草丈、茎数、葉数「並」（新潟農業普及指導センター 7月28日付）</p> <p>(三 条) 「コシヒカリ」の出穂期は高温で早まり、7月31日頃と予想される。（5月連休田植えの場合） （三条農業普及指導センター 7月28日付）</p> <p>(十日町) 幼穂調査の結果から、「コシヒカリ」の出穂期は前年と比べて2日程度遅れ、「新之助」は前年と比べ6日程度遅れる見込み。（十日町農業普及指導センター他 7月28日付）</p> <p>(柏 崎) 「コシヒカリ」の出穂は、前年並の8月3日頃になる見込み。（柏崎農業普及指導センター 7月28日付）</p> <p>(上 越) 「コシヒカリ」の出穂期は平年より2日程度早まる見込み。（上越農業普及指導センター 7月28日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>秈</i>、<i>秈</i>、<i>秈</i>の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」及び「こしいふき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の低い「ゆきん子養」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。</li> </ul>
富 山	<p>【生育状況（7月19日）】</p> <p>「コシヒカリ」：平年に比べ、草丈はやや長く、茎数、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ3日早い7月8日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より3日早い7月30日頃と見込まれる。</p> <p>「てんたかく」：5月1日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月14日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>「てんこもり」：平年に比べ、草丈、茎数、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月11日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>「富富富」：近年に比べ、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、近年より3日早い7月10日となった。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より3日早い8月1日頃と見込まれる。</p> <p>（富山県 7月19日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>秈</i>、<i>秈</i>、<i>秈</i>の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」及び「てんたかく」県のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。</li> </ul>
石 川	<p>【7月28日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」出穂期予想 加賀：7月23日～7月28日、平年に比べ3～4日早い。能登：7月27日～7月31日、平年に比べ3日早い。</li> </ul> <p>・草丈 「コシヒカリ」の草丈は平年比106%（加賀地域104%、能登地域108%）とやや長い。「ひやくまん穀」の草丈は近年比103%（加賀地域106%、能登地域99%）で並であるが加賀地域はやや長い。</p> <p>(生育) ・みあたりに茎数 「コシヒカリ」は、平年比107%（加賀地域114%、能登地域97%）と並になっているが加賀地域でやや多い。既に出穂期を迎えている圃場が多いことから、穂数は平年並～やや多くなる見込みである。</p> <p>「ひやくまん穀」は、近年比101%（加賀地域108%、能登地域92%）と並になっており、目標穂数は確保される見込みであるが、目標を下回る見込みの圃場も見られる。</p> <p>（石川県農林総合研究センター 8月1日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>秈</i>、<i>秈</i>、<i>秈</i>の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」及び「ゆめぴつば」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。</li> </ul>
福 井	<ul style="list-style-type: none"> <li>「移穂ハナエチゼン」の出穂期は、早い地域では7月10日頃、県全体では平年より3日程度早く、7月13日頃となった。</li> </ul> <p>(生育) ・「コシヒカリ」や「あきさかり」の幼穂形成期も2～3日早くなっている。</p> <p>（福井県 7月15日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>秈</i>、<i>秈</i>、<i>秈</i>の発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</li> </ul>
長 野	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月下旬以降の著しい高温の影響で、生育はかなり進んでいる。定点圃場の調査では、「あきたこまち」の出穂期は7月24日で平年より4日早。「コシヒカリ」は8月1日頃（平年より8日早）に出穂期を迎えると予想され、出穂が最も早かった平成30年より早まると思われる。</li> </ul> <p>(生育) ・7月28日現在、現地の平坦地の早生品種（あきたこまち、美山錦等）は穂揃い～傾穂始期。4月末～5月初旬植の「コシヒカリ」は出穂期、5月上旬植の「コシヒカリ」は出穂始めを迎えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出穂が早まっているため、成熟期も平年よりかなり早まる事が予想される。</li> <li>出穂がかなり早まっており、平坦地・5月初旬植・「コシヒカリ」の刈り取り開始時期は9月初旬からが予想されている。また早生品種の刈り取り開始時期は8月29日頃からが予想されている。</li> </ul> <p>（松本農業農村支援センター 7月29日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。</li> </ul>
滋 賀	<p>【農業技術振興センター 水稲作況調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年より長く、茎数は少なく、葉色は濃く推移している。</li> </ul> <p>(生育) ・「みずかがみ」の出穂期は、平年より2日早い7月21日となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内ほ場の「みずかがみ」では、7月18日頃を中心に収穫期を迎えている。</li> <li>5月上旬移植の「コシヒカリ」では7月24日頃に出穂期を迎えている。</li> </ul> <p>（滋賀県農業技術振興センター 7月26日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</li> </ul>

兵 庫	<p>(7月1日現在)</p> <p>(県北) 「コシヒカリ」の草丈は平年より長く、茎数はかなり多く、葉齢の進展は平年並みである。遅植えでは、草丈は平年よりやや長く、茎数はかなり多く、葉齢の進展はやや早い。</p> <p>(生育) (県北以外) 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。</p> <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。</p>
岡 山	<p>・早生品種は、出穂が平年並から3～7日早く、茎数は概ね平年並となっている。</p> <p>・このまま高温傾向が続くと、早生品種の成熟が早まると予想される。</p> <p>・中生・晩生品種は、分けつ盛期～幼穂形成期で、茎数は概ね平年並となっている。</p> <p>(生育) (岡山県農林水産総合センター 8月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病と縮葉枯病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
広 島	<p>【7月28日調査 5月19日田植 栽植密度22.2株/m<sup>2</sup>】</p> <p>「コシヒカリ」草丈 98.1cm (平年99.7cm)、茎数 316本/m<sup>2</sup> (同375本/m<sup>2</sup>)、葉齢 12.3葉 (同12.9葉)</p> <p>「あきらまん」草丈75.7cm (平年83.8cm)、茎数331本/m<sup>2</sup> (同399本/m<sup>2</sup>)、葉齢13.4葉 (同13.9葉)</p> <p>「ヒノヒカリ」草丈80.2cm (平年84.2cm)、茎数328本/m<sup>2</sup> (同409本/m<sup>2</sup>)、葉齢12.8葉 (同13.0葉)</p> <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 7月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病と縮葉枯病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
愛 媛	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) 平年並</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、縮葉枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) 平年並</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、縮葉枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
福 岡	<p>【7月15日現在】</p> <p>【早期水稲】(夢つくし、コシヒカリ) 4月中下旬植えの出穂期は7月7～13日程度で平年よりやや早い。稈長はやや長く、穂数は平年並～多い。</p> <p>【普通水稲】(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど) 6月上旬植えの「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期を迎えている。 ・移植後、高温多湿で経過したため、生育は順調に進んでいるが、降水量が少なく、用水を確保しにくい場合は生育量がやや小さい。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「夢つくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) やや良</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) やや良</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p> <p>(生育)</p> <p>【生育状況(7月中旬)】</p> <p>・普通水稲は分けつ期</p> <p>(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月29日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさ358」への作付誘導が進められている。</p>
鹿 児 島	<p>【作柄の良否】</p> <p>(早期栽培) やや不良</p> <p>(農林水産省 7月29日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月30日～8月29日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：令和4年8月1日 12時時点での取り纏め。  
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道農政部 7月22日)、  
農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月22日)、  
農作物生育状況調査の概要7月15日現在(北海道留萌振興局 7月22日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月22日)、  
水稲作況調査報告(7月20日現在の生育状況)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月20日)、  
農作物技術情報第5号水稲(岩手県 7月28日)、  
大崎稲作情報第7号(大崎農業改良普及センター 7月22日)、  
稲作情報No.6(宮城県石巻農業改良普及センター 7月22日)、  
栗原の稲作通信令和4年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月22日)、  
令和4年度産気仙沼・南三陸稲作情報第8号(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月25日)、  
令和4年稲作情報第6号(宮城県亶理農業改良普及センター 7月22日)、  
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(8月1日閲覧)、  
当面の技術対策(8月)(山形県農業技術環境課 7月25日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月28日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月20日)、  
令和4(2022)年度水稲生育診断予測事業速報No.6(栃木県 7月25日)、  
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、  
R4岩船米生育速報(7月28日現在)(村上農業普及指導センター 7月28日)、  
令和4年度新発田地域水稲生育速報No.7(新発田農業普及指導センター 7月29日)、  
FAX稲作情報No.10(三条農業普及指導センター 7月28日)、  
コンセカ・こしいぶき生育速報No.8(7月28日)(上越農業普及指導センター)、  
十日町地域稲作生育速報(十日町農業普及指導センター)ほか 7月28日)、  
稲作速報No.8(新潟農業普及指導センター 7月28日)、  
稲作生育速報第8号(柏崎農業普及指導センター 7月28日)、  
TACS情報第8号(富山県 7月19日)、  
令和4年度産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 8月1日)、  
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日)、  
令和4年度作物技術普及情報第14号(松本農業農村支援センター 7月29日)、  
令和4年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月26日)、  
令和4年度兵庫県農業気象技術情報No.2(7月情報)(兵庫県 7月5日)、  
水稲の高温による品質低下防止対策について(岡山県農林水産総合センター 8月1日)、  
水稲生育状況(広島県総合技術研究所農業技術センター 7月28日)、  
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 7月5日)、  
福岡県の主な農産物の生産状況(専技情報より抜粋)令和4年7月15日現在(福岡県農林業総合試験場 7月21日)、  
令和4年度病害虫発生予報第2号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月29日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月28日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月28日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月28日気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月28日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月28日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月28日広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月28日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月28日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月28日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(7月19日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(7月19日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(7月19日気象庁)、  
北陸地方こう3か月の天候の見通し(7月19日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(7月19日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(7月19日広島地方気象台)、  
四国地方こう3か月の天候の見通し(7月19日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(7月19日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(7月19日鹿児島地方気象台)、

高温に関する早期天候情報(北海道地方)(7月28日札幌管区気象台)

令和4年度産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月29日)  
令和4年度 病害虫発生予報第5号(農林水産省 7月20日)、  
令和4年度産水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)